



## 日本共産党 石田 秀三 議員

- 1 国民健康保険税の負担軽減について
- 2 市立保育所の改築計画について

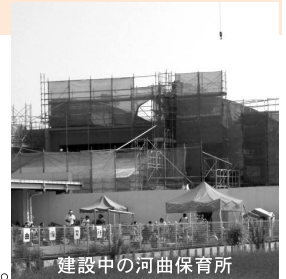
**質問1** 国保税の負担は市民の暮らしを圧迫している。収納率が85%を切り、値上げと滞納の悪循環となっている。国保税の引き下げ、減免の拡大を求める。そのためには、平成21年度に行なった一般会計からの繰り入れを、せめて全国平均の一人当たり1万円、5億円行なうことが引き続き必要である。

**答弁1** 国民健康保険支払準備基金が底をつき、本年度税率の改定を行った。現状として税率を下げることは困難である。一般会計からの補てん的意味合いの繰り入れは、あくまでも臨時的措置であり、繰り入れを

継続して行なうことは困難である。

**質問2** いま河曲保育所の建て替えが進んでいるが、次の計画はあるのか。築41年の玉垣保育所、築35年の算所保育所をはじめ、老朽化で現在の保育ニーズに合っていないので、一定の年数で建て替える計画があるべきではないか。緊急性の高い老朽園舎である玉垣保育所と算所保育所については、来年度からでも着手すべきである。

**答弁2** 老朽化が著しく緊急性の高い保育所は、玉垣保育所と算所保育所であると認識している。建て替えは移築の手法をとるので、その用地の確保を最優先に取り組んでいきたい。



## 日本共産党 森川 ヤスエ 議員

- 1 神戸中学校跡地利用について
  - (1) 市民の財産として残し総合的な利用を求める
- 2 ワクチンで防げる病気予防について
  - (1) ヒブ・子ども用肺炎球菌・子宮頸がんワクチン接種は無料に

**質問1(1)** 神戸中学校跡地は利用価値の高い土地であり、地価が著しく下落している現状では売却せず地域の実情を考え市民の財産として総合的な利用を。

**答弁1(1)** 基本的には財源ということで売却を検討しているが、跡地についてはいろいろな場でご意見を頂いているので、そのまま進むのではなく、有効活用できるかを全庁的に検討するよう指示している。

**質問2(1)** 子どもの髄膜炎は予防ワクチンを投与することでほぼ確実に病気の予防が出来ることから、多くの国ですでに公費接種がおこなわれている。また日本人女性が罹患する子宮頸がんの70%はHPVウイルス感染であるが、ワクチン接種によって感染が予防できることも明らかである。しかし髄膜炎予防のための2つのワクチン接種費用や子宮頸がん予防ワクチンが高額であるためなかなか接種できない。公費補助で無料接種できるようにすることを求める。

**答弁2(1)** ワクチンの有用性は十分認識しており、全額は無理だが3点セットで何らかの助成をしたい。3点セットで補助をするのは県下では始めてであり、財源の確保に努めたい。具体的なものはこれから決めるので低所得層への支援も検討したい。



## 市政研究会 市川 哲夫 議員

- 1 孤立死ゼロの街づくりについて
- 2 小中学生の医療費の無料化について
- 3 公用車の運営について

**質問1** 孤立死はいかにして防げるか。また、孤立死を防ぐ方法として、緊急通報システムや地域包括センターの活用等が考えられるが、取組み状況は。

**答弁1** 孤立死を防ぐには、地域コミュニティの活性化が重要と考えられる。緊急通報システムの実績は平成21年度末で延べ720件である。地域包括支援センターでは、ご近所の見守りさん講座を開催し、地域での見守り活動に役立てていただいている。

**質問2** 親の経済的な理由により必要な医療を受けられないことがあってはならず、他の予算を切り詰めてでも、

実施することができないか。

**答弁2** 三重県及び県下の市町で構成する福祉医療費助成制度改革研究会や福祉医療費助成制度改革検討会において、受益と負担の公平性の確保、制度持続の可能性、県内すべての市町で実施可能な制度の3原則を基に対象年齢拡大などを検討している。

**質問3** 職員による公用車事故件数が多いのは、公用車が多いからではないか。

**答弁3** 平成21年4月1日現在の鈴鹿市名義の公用車は284台である。公用車管理体制の見直しを平成19年度から実施した結果、本庁管理の公用車は平成18年度当初より17.2%削減できた。公用車更新についても、一層の条件整備を行い、さらなる公用車台数の削減に努めて参りたい。